

# 京大発 平和声明 いいね!

京都大の教授や学生が今月二日、「自由と平和のための京大有志の会」を設立し、声明書を発表した。安保関連法案に直接言及するのではなく、語りかけるような詩的な文章が若者たちの心をつかみ、評判を呼んでいる。(榑原崇仁)

## 「戦争は、防衛を名目に始まる…」

声明書は「戦争は、防衛を名目に始まる」という一文で始まる。したためたのは、有志の会発起人の一人、農業史を専門とする准教授の藤原辰史さんだ。有志の会には経済学や歴史学、教育学、環境学の教授や准教授、学生有志ら十人ほどが参加している。五人ほどが参加している。生まれたての小さな団体だが、声明書をインターネット上で公表すると、交流サイト・フェイスブックのシェア(共有)数が、瞬く間に一万を超えた。藤原さんは「戦争の真理をシンプルに伝えるために」と驚く。会を設立するきっかけになった一つが安保関連法案の国会審議。そして一つ、政府の大学に対する介入だ。

## 京大有志の会の声明書

戦争は、防衛を名目に始まる。  
戦争は、兵器産業に富をもたらす。  
戦争は、すぐに制御が効かなくなる。  
  
戦争は、始めるよりも終わるほうが難しい。  
戦争は、兵士だけでなく、老人や子どもにも災いをもたらす。  
戦争は、人々の四肢だけでなく、心の中にも深い傷を負わせる。  
  
精神は、操作の対象物ではない。  
生命は、誰かの持ち駒ではない。  
  
海は、基地に押しつぶされてはならない。  
空は、戦闘機の爆音に消されてはならない。  
  
血を流すことを貢献と考える普通の国よりは、知を生み出すことを誇る特殊な国に生きたい。  
  
学問は、戦争の武器ではない。  
学問は、商売の道具ではない。  
学問は、権力の下僕ではない。  
  
生きる場所と考える自由を守り、創るために、私たちはまず、思い上がった権力にくさびを打ちこまなくてはならない。

## 詩的かつ簡潔な訴え 若者に響く

下村博文文部科学相は先月、全国の国立大に対し、中期目標を策定する際に人文社会科学系や教員養成系の学部などについて廃止や見直しに取り組むよう通知した。また、入学式などで国旗掲揚と国歌斉唱を求めた。「安保法案の問題も大学が直面する状況も根は同じ。話し合いや熟慮がないまま、強権的に物事が進められている」と藤原さんは言う。命をないがしろにせず、服従を強いられることがないよう声明書に込めたのが、次の言葉だ。「血を流すことを貢献と考える普通の国よりは、知を生み出すことを誇る特殊な国に生きたい」そして、過去の強い反省を込めて、こう続けた。「学問は、戦争の武器ではない。学問は、商売の道具ではない。学問は、権力の下僕ではない」「京大を含めた旧帝国大は戦争で、軍事研究や『大東亜共栄圏』の理論構築などに積極的に関与した。強権的な大学改革を進めようとする安倍政権により、同じような道をたどりかねない」藤原さんとともに、会の設立に奔走したのが同じ准教授の石井美保さんと、教授の小関隆さん。三人とも京大人文科学研究所に所属しており、昨年が開戦百年だった第一次世界大戦について共同研究をしてきた仲間でもある。

石井さんは「いつの時代も、権力者が起こした戦争で犠牲になるのは一般の人たちです」と語る。今後は、大学の関係者以外の市民も取り込む形で、会の活動を広げていくことを想定する。小関さんは「幸い、大学や学生の多い京都は、市民と大学の距離が近い。地道に学習会を開き、いまの流れに抵抗する人を一人でも増やしていきたい。安保の問題は法案が通ったら終わりではない。その先に改憲、戦争という問題があるのだから」と述べた。

ものしか出てこなかった

二週間の追跡

示す「週間空輸実績」も黒